

看護いばらき



公益社団法人
茨城県看護協会
Ibaraki Nursing Association

No.127 令和2年1月31日



CONTENTS

- P 2 … 新年あいさつ・「愛の募金」についてのご報告
- P 3 … 地区意見交換会
- P 4 … 茨城県看護研究学会
- P 5 … 入退院支援～入院前から取り組み～
- P 6 … 血液・輸血看護～ナースのための輸血の基本～
- P 7 … 看護師のクリニカルラダー(JNA版)導入事例の共有と活用研修
- P 8 … 地域包括ケア病棟の紹介
- P 9 … シリーズ仕事をしていて、こころに残った一言
- P10… 災害支援ナース活動・認知症カフェ
- P11… 令和2年度改選役員、推薦委員及び令和3年度日本看護協会代議員・予備代議員への立候補について
- P12… 第4回書面理事会・第5回理事会報告
日本盲導犬協会・きずなBOXについて・編集後記

会員数

(令和2年1月15日現在)

合計	15,446名
保健師	358名
助産師	550名
看護師	13,485名
准看護師	1,053名



看護の力で健康な社会を！

実感する看護実践

茨城県看護協会

会長 白川 洋子



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には旧年中も当協会の運営に、ご支援ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

令和2年は子年で繁栄をあらわすとの説があります。茨城県看護協会会員数は就業者数の50%を超えた15,336人となり、例年増加しております。これも会員の皆様の熱いご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、「自助・互助・共助・公助」の基本理念の下、地域包括ケアシステムが進んでおります。自分らしい暮らしを、人生の最期まで続けることができるでしょうか。「人生会議」という言葉を聞かない日がないくらい浸透しておりますが、人びととの繋がりが希薄になっている現代では誰と繋がって、どのように繋がればいいのか戸惑っているのが現状です。自分ごととして考えることが重要ですが、「その時」にならなければ実感がわかないのが世の常です。

「自分の最期」をいつ頃から、どのような

場面で、どのような状況で、人は意識するのでしょうか。今、まさに手探りの状態で医療・福祉に係る専門職が頑張っています。

このような中で、病院や施設という枠の中で考えることには限界があり、地域の専門職が集まり会議等を開催しており、いかに「その人の価値観」にコミットできるかが重要と考えます。臨床実践の中でその人の価値観に触れたとき、何か腑に落ちたと感じたことのある看護職は多いのではないのでしょうか。看護には「その人らしさを尊重し、病気や障がいと共に最期まで生きる」ことを支援する働きがあり、最も人々に近いところの存在です。このコアの部分の部分を大事にして、本年度も様々な公益事業に取り組んでいく所存でございます。

そして公益法人としての責務を果たし、県民の期待に応えることができるよう引き続き会員の皆様方のご支援、ご協力をお願いするとともに、会員の皆様のご多幸を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



高橋靖市長(左)に目録を手渡す白川洋子会長

「愛の募金」についてのご報告

毎年、会員の皆さまからご厚意を頂いております「愛の募金」305万円を、台風19号による被害の多かった6市町に災害被災地に対する義援金等として寄附いたしました。

(水戸市・城里町・常陸太田市・常陸大宮市・大子町・ひたちなか市)

皆様の温かいご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

令和元年度 地区意見交換会

9月11日の古河・坂東地区を初日に11月21日まで全地区9か所において、地区意見交換会が開催されました。看護職団体として、地区ごとに最適な地域医療のあり方を考えていく必要があることから、意見交換会では、行政や各関係機関等に要望活動へつなげていくことを目的に、地域医療における現状や課題等の情報共有の場の一つとして、活発な討論が行われました。

内容

1 令和元年度事業方針・重点事業報告

- ・ 少子超高齢社会に対する人材育成
- ・ 看護職の働き方改革の推進
- ・ 地域包括ケアにおける看護提供体制の推進
- ・ 組織力強化

2 令和2年度予算編成に伴う茨城県への要望について

- ・ 看護職の働き方改革に伴う勤務環境改善の推進について
- ・ 看護補助者の活用推進について
- ・ 地域における訪問看護提供体制の推進について
- ・ 看護師等養成所教員の勤務環境の改善及び再教育機会の確保について



3 Nursing Now ! 「語り場 私のNursing Now !」

「看護の力で健康な社会を！」をテーマに、地区意見交換会では看護職がもつ可能性を最大限に発揮し、人々の健康な暮らしに貢献できる行動を考える「語りの場」が行われ、活発な意見交換ができた。

<語り場での意見・発表>

- ・ 制度に介護休暇があっても責任感や立場上、仕事と介護を両立する気持ちが強く働いていた自分があった。管理者が制度を利用してくれると、モデル的な働き方になり、スタッフも制度を利用しやすい環境になる。そのための人材育成、自分が抜けても仕事に支障が生じないような体制をつくることが重要である。
- ・ 訪問看護の現場は、1人が休むと管理者自身がそれを補わなければならない状況である。介護や育児休暇といった制度があるが、自分を犠牲にして働いている看護師もいる。解決に向かうには地域医療構想のなかで、訪問看護ステーションにおいても連携が必要になってきた。ある事業所で欠員がでも事業所間で補えるような連携システムができるとWLBの向上が見込めるようになる。
- ・ 統括保健師は、縦割り業務からチームとして取り組むように変化してきた。
- ・ 看護学校では、実習を通して社会基礎力を養い、専門職としてキャリア形成につなげたい。
- ・ 訪問看護では、子育て世代が活躍している。個々のキャリアを活かしつつ、健康管理に努め、子の成長に合わせたアプローチをしている。

—写真や意見などは取材したつくば地区会場のものです—

取材：木村 濱野

茨城県看護研究学会

- 日 時 令和元年12月21日(土) 10時～16時
- 場 所 ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨城県民文化センター)
- 参加者 424名

今回で32回を迎える看護研究学会、「生きるを支える意思決定」を学会テーマとし、一般応募47題、「生活改善」・「慢性疾患」・「意思決定支援」・「療養支援」・「地域支援病院」・「地域包括ケア病棟」・「他職種連携」等のキーワードがあり、看護実践のダイナミクスを伺う内容となっていました。



発表者の声

- 発表は緊張したが他者の研究発表から自身の勉強になった。質疑を受けて他施設での悩みについても知ることができ、情報を共有できた機会となった。
- 「患者さんが本当に言いたい(伝えたい)ことはなんなのだろうか」という思いがあり、周りのスタッフにも協力いただき発表を迎えることができた。今回の研究で取り組んだことを引きつづき繋げていきたい。
- 「患者の意欲低下について」研究に取り組んで、わかったことがあった。これからも、定期的に意欲低下を評価して、環境調整や食事の工夫など患者の思いに寄り添う姿勢を忘れずに関わっていきたい。
- 疾患が治っても精神的に落ち着かないと、退院が進まない現状がある。バリデーション療法というアプローチで認知症患者が少しでも穏やかに入院生活を過ごせるよう、患者の話を聴き、全人的にとらえられるよう引き続き関わっていきたい。



特別講演は「これからの幸せを考える意思決定」と題して茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長の長谷川幸介先生を講師としてお迎えし、①「チーム医療の進展と看護師の2つの専門性」②インフォームド・コンセントと「患者の意思決定」を支える③地域包括ケアと看護師の役割についてご講演いただきました。

新しい医療・介護システムが不可欠になっており、看護師の新しい役割に触れながら、時には笑いもあり、「患者の自己(意思)決定」について考えさせられる時間となりました。

取材：木村 薄井

入退院支援

～入院前から取り組み～

- 日 時 令和元年 11 月 15 日 (金)
10 時～ 16 時
- 場 所 茨城県看護研修センター
- 参加者 80 名

入院時から始める退院支援と看護師の役割を中心に、午前中は、各病院の入退院支援の取り組みを学び、午後は事例をもとにグループワークを行ないました。

各グループが患者・家族の意向を大切にしながら、退院後の生活に着目し具体的な支援内容やサービスを検討し、発表していました。発表後、事例に対して講師より、実際に導入したサービスをもとに振り返りを行ない学びを深めていました。

受講の動機

- 今後入退院支援の業務に携わっていくため
- 入退院支援の役割を学び、活用できたらと思った
- 今年度の自分の課題、解決のために参加した
- 知識の向上と、入退院支援の動向について知れたかった
- どのように介入すれば、患者、家族の不安が少なく、安心・安全に退院することができるのか学びたいため

本日の感想

- 患者さんや家族の思いに寄り添い、安心した生活をサポートできるよう、福祉サービスの利用など調整し協働が必要であると感じた。本日学んだ事を活かしていきたい。
- 他の病院がどのように退院支援を行っているのか知ることが出来、自分の病院の退院支援の参考にしていきたい
- 患者・家族の意思決定を尊重し、在宅へつなげられるサポートの必要性を感じた。
また入院時から退院にむけて現状を把握したうえで、問題を抽出し関わりを持ち、患者・家族の納得した退院支援をしていきたい



- 今後の病棟での取り組みに、大変参考となった
- 退院調整は入院前から行う事が必要。早期からの患者・家族の意向や情報収集することが大切だと学んだ。患者がどのような生活者として暮らしているのか理解し対応していきたい。
- 各部署との連携を円滑に進めていきたい

講師よりコメント

みなさんが、患者さんの事を、全人的にみてアセスメントできているのでとても感動しました

取材：守屋 濱野



血液・輸血看護 - ナースのための輸血の基本 -

- 日時 令和元年11月21日(木) 10時～16時
- 講師 筑波大学附属病院 外来化学療法室
がん化学療法看護認定看護師 嶋岡真理先生
- 場所 茨城県看護研修センター

研修内容

輸血は、年々安全性は高くなっているが、輸血に伴う感染症や副作用のリスクがあると言われています。今回の研修では、輸血実施前の準備から輸血の副作用、血液製剤の適正使用まで詳しく講義が聞けました。講義のなかで繰り返し、安全に輸血ができるように確認事項（患者氏名、血液型、血液製剤番号、有効期限、交差試験の検査結果、放射線照射の有無）をしっかり行う必要があることを話されていました。

また、輸血過誤についてグループワークを行い、ケースに沿って事故の起こった原因や背景、どのような対応、改善策が考えられるか等、活発な意見交換が行われました。

さらに、普段から血液製剤に関わる参加者や経験の浅い看護師の参加が多く、輸血の取り扱いや観察の注意点の疑問などの質問が寄せられました。



参加者の声

●受講動機

- ・血液製剤を取り扱う機会が多く、改めて基本を振り返ろうと思った
- ・血液内科病棟、ICU、HCUと経験しているが、育児、出産で何年か勉強する機会から遠ざかっていたので、改めて現在の状況（新しい知識や技術など）について学びたいと思ったため

●研修の感想、今後どのように活かしていきたいか

- ・グループワークでは様々な意見交換ができ、色々な視点をもって業務をすることが必要だと改めて感じました。
- ・輸血は怖いという意識が高かったが、適切な確認がされていれば大きな事故につながらないことが分かった。怖いという気持ちは持ちつつも安全に輸血の実施ができるようにしていきたい。

取材：渡邊 岩崎

看護師のクリニカルラダー（JNA版） 導入事例の共有と活用研修

●日 時 令和元年 12 月 2 日（月） 10 時～ 16 時
●場 所 茨城県看護研修センター



＜研修の内容＞

今回の研修は、看護師のクリニカルラダー（JNA 版）の普及及び導入に向けて活用事例の共有化を図り自施設への導入を推進できることを目的に開催されました。

山口先生からは、笠間市立病院の組織体制からクリニカルラダーの作成・導入、評価までの流れを講義していただいた。その中で、クリニカルラダーを作成・導入するための組織体制作りやスタッフへの周知活動、年間通しての評価方法が詳しく知ることができた。また、導入してのメリットやデメリットも知ることができた。

管理職の参加者が多くいたこともあり、自施設でどのようにクリニカルラダーを活用していくか活発な質問があった。クリ

ニカルラダーの導入、活用が喫緊の課題であることがわかる。

取材した中には、すでに自施設で導入し、評価方法を知りたいという参加者だけでなく、導入していない施設の参加者もあり、今後の参考にしたいとの声もあった。

鈴木先生

初めから完璧を求めない、評価基準をそろえる、モチベーションを維持できることがポイント。管理者や本人もレベルがわかり（見える化）、個人にあった研修参加や研修成果を管理者が実感できるようになる。組織が患者に対してどんな看護を提供していきたいか、そのためにどんな人材育成をしていきたいかを考えて作成する。組織的役割遂行能力や倫理の項目を独自で追加していくことで施設に合ったものを作成していく。また、人事考課制度と連動しているため、スタッフのモチベーションやラダーの浸透に繋がっていく。目標面接で、何をやっていくか決めることで自然とラダーに寄り添っていくことになる。



海藤先生

実際に看護部長がスタッフの看護ケアをシャドーという形で確認した。また、市立ということもあり、人事考課とも連動した。作成にあたり、看護協会や他院の師長に協力してもらったことでモチベーションを維持できた。

参加者の声

●受講動機

- ・ 自施設のクリニカルラダーがありますが、形骸化しているので新しくキャリアラダーを導入する予定で現在作成しているため
- ・ 今までの自施設のラダーに JNA クリニカルラダーを加えての新しいラダーを導入した。自施設のラダーを振り返り、評価方法等他施設での活用事例について知りたい

●研修の感想、今後どのように活かしていきたいか

- ・ ラダーについて自身が理解するとともに施設に持ち帰り、導入するには時間や環境調整等必要な問題がたくさんありそうですが、患者にどのようなケアを提供したいのか、施設の求める看護像に立ち返り、考えていきたいと思います。
- ・ 他施設での取り組み、悩み、失敗談、工夫している点などとても参考になりました。最初から完璧なラダーは構築できないという言葉を頂き安心しました。評価修正しながら当院にあったクリニカルラダーを構築運用し、看護師が活き活きしながら働くことができ信頼される看護を提供できるような体制を目指していきたいと思います。



取材：渡邊 薄井

地域包括ケア病棟の紹介

社会医療法人若竹会 つくばセントラル病院

茨城県牛久市柏田 1589-3

☎ 029-872-1771

地域包括ケア病棟

看護師長 石塚 泰子



当院は県南地区、牛久市にある地域医療支援病院です。病床数は、急性期病棟 208 床（HCU 8 床含む）、回復期リハ病棟 55 床、緩和ケア 20 床、地域包括ケア病棟 30 床、総病床数 313 床です。今年 11 月から療養型病院として土浦市の都和病院が統合されました。また、セントラルグループ内に老健、特養、有料老人ホーム、グループホーム、小規模多機能施設、訪問看護ステーション、訪問診療など在宅での活動の幅を広げています。

当院の地域包括ケア病棟は、2016 年に開棟し、4 年目を迎えています。主に院内外のポストアキュートの機能を担い、地域からのレスパイトの受け入れも積極的に行っています。他に眼科、泌尿器科等の短期滞在手術対応もしています。地域包括ケア病棟の病床稼働率は今年度上期平均 90.7%、在宅復帰率は 86.4%、在棟日数は 23.8 日でした。看護必要度は、月平均 33%前後になっています。また、地域包括ケア病棟の看護基準は 13:1 ですが、当院では退院支援の充実のため、基準より多く配置されています。

病棟への受け入れに際し、病棟専従の MSW、薬剤師、リハビリセラピスト、退院調整看護師、看護副部長（ベッドコントロール責任者）、地域包括ケア病棟師長、主任が週に 2 回集まり、判定会議を行っています。受け入れ検討はもとより、対象患者の急性期病棟での退院調整進捗の確認や促進、長期入院患者の転棟促進も行います。



当病棟では退院支援の充実のためプライマリー制を取り入れ、退院までの支援、調整の計画、評価を他職種と連携して行っています。プライマリナースとして深く関ることで、ご家族から「担当の〇〇看護師さんと話したい」と声を掛けていただくケースも多く、きめ細やかな支援に繋がっていると感じています。

また、退院前・退院後訪問指導にも積極的に取り組んでいます。個々の生活の場を実際に確認することで、目標が一層具体的となり、在宅で安心して生活できるよう指導を行い、入院中の支援、調整の評価にも活用しています。

他職種連携カンファレンスは、地域のケアマネジャーさんをはじめ各施設の担当者、福祉用具業者等多数のスタッフの方々にご協力頂き、1 ヶ月平均 10 件程開催しています。カンファレンスの効果的・効率的な開催について課題はありますが、他職種連携の中での看護師の役割を学び、患者様、ご家族様の想いに沿った退院支援を目指して取り組んでいます。

生活リハビリも、専従リハビリセラピストと協働し、患者様の在宅生活をイメージしながら関わられるよう積極的に検討を重ねてきました。早期から日常生活上の課題を明確にするために、日常生活トレーニング表を作成し活用しています。患者様の課題を共通認識することで個別の支援ができるようになってきました。1 つ 1 つの生活動作援助が患者様の在宅生活に繋がっていくこと、1 つ 1 つが『看護であること』と意識しながら更なる改善を図っていきたいと思っています。

この地域でも、高齢化による影響は大きく、在宅復帰支援が難しいケースが多くあります。患者様、ご家族様が笑顔で過ごせる大切な日々を、地域で繋いでいけるよう、取り組んでまいります。



仕事をしていて、ココロに残った一言

茨城県西部メディカルセンター

海老沢佳純

「私ね、ここから雲を見てるの。もうお迎えが来てるから、あんなふうに穏やかに逝けたらなって思っ。」食事介助をしている時に高齢の患者さんがぼつりと言った。普段あまり話さない方の言葉にびっくりしてしまい、新人だった私は「そうですか。そんなこと言わないで。今は頑張って食べましょう。」と言ってしまった。私はその患者さんの思いを受け止めることができずとても後悔した。私たちは患者さんの死に向き合う場面が多く、その時を迎える患者さん・家族を支える役割も担う。本当は毎回怖い。だけど、一人ではないし医師や看護師、多職種と連携を図りながら患者さん・家族の思いを支え続けようと思う。

水戸中央病院

理崎 一恵

まだ看護師になって間もない頃、肺癌で入院していた男性がいた。とても気難しく暴言や看護介入拒否もあり、私はその患者に苦手意識を持っていた。その後、状態が悪化し呼吸困難となった患者に突然「今まで辛く当たって悪かった。」と言われた。自分の病気を受け入れられず、未来に溢れた若者を見ているのが辛かった、と。そして「本当は感謝してたよ。ありがとう。」と言って亡くなった。私は患者の本当の気持ちを汲み取れなかった事を悔やんだ。この時の思いを胸に、これからも病気や怪我を前に苦しむ患者の気持ちに寄り添い、穏やかな最期を迎えられるよう関わっていきたいと思っている。

募集



**「仕事をしていて心に残った一言」
その一言があったから頑張っている
その一言で、看護観が変わった
その一言で、救われた**

2つのエピソードありがとうございます。
これからもどんどん「看護いばらき」で紹介させていただきます。

応募要項

今まで行ってきた看護の場面で、患者さま、ご家族、他の医療従事者などからもらった、心に残った言葉・体験を募集しています。

投稿していただいたものを「看護いばらき」で、紹介させていただきます。

対象は、茨城県内で就業している看護職の方です。

氏名、看護職歴、施設名を記載してください。

(匿名での掲載も可能です)

原稿は、300文字以内でお願いします。

郵送先 310-0034

茨城県水戸市緑町 3-5-35

茨城県看護協会 広報委員会 宛

メール先 ibakango@olive.ocn.ne.jp

令和元年台風第19号に係る 災害支援ナースの活動

令和元年 10月24日（木）

JMAT 茨城チーム（医師1名、看護師2名、薬剤師1名、連絡調整員1名）が、大子町保健センター救護所を開設いたしました。

受診した対象者の受付、バイタルサイン測定、診療の介助を実施しました。

- ・ 80 台男性：右膝痛
- ・ 40 台女性：感冒。



※この事業は、「まちの保健室」と連携して、健康相談と認知症の早期発見、予防の取り組みを合わせた形で、NPO 法人に委託して行っているものです。
 ※問い合わせ先が変更されています。ご注意ください。

認知症カフェ 「となりの縁側」



認知症について気軽に話す場所です。
 認知症や介護のこと、お茶をしながらゆっくりおしゃべりしませんか？ どなたでも参加できます。

【日 時】 8/31 9/14 10/12 11/9
 12/14 1/11 2/8 3/14

【時 間】 13:30～15:30

【場 所】 茨城県看護協会（水戸市緑町3-5-35）
 1F まちの保健室

【参加費】 100円（お茶代）

認知症、軽度認知障害は早期に発見し対応することが大切です。
 以下のような物忘れなど気になりますか？

- ・ 今何をしようとしていたか簡単に思い出せない
- ・ 何かやろうとしても「まあいいか」と思ってしまう。
- ・ レジで会計する時に小銭が使えない。
- ・ 人と会う約束を忘れた事がある。
- ・ 外出することが減った。
- ・ 段取りが下手になった。
- ・ 探し物が増えている。
- ・ 今日の日付が言えない。
- ・ 長年の趣味を楽しめなくなった。
- ・ 同じことを何度も言ったり尋ねたりする。

* 出典：医療法人社団創知会「お茶の水メモリークリニック」

【問い合わせ先】
 NPO法人ともに歩む認知症の会・茨城
 ☎ 090-9370-3121
 代表 澁谷史子

問合せ先が変更されています。
 ご注意ください。



令和2年度改選役員、推薦委員及び 令和3年度日本看護協会代議員・予備代議員への 立候補について

選挙管理委員長 綿引 英雄

令和2年6月18日（木）に開催される通常総会（会場：ザ・ヒロサワ・シティ会館 ※茨城県立県民文化センター）で、令和2年度改選役員、推薦委員及び令和3年度日本看護協会代議員・予備代議員選挙を執行しますので、「立候補」と「推薦」についてお知らせいたします。

■改選役員と役職数

- 1 理事・監事 11名（任期：理事2年・監事4年 ※筑西・下妻地区担当理事のみ
前任者残任期1年）
副会長1名、専務理事1名、常任理事1名、職能担当理事2名（助産師、看護師）
地区担当理事5名（水戸、日立、鹿行、取手・竜ヶ崎、筑西・下妻（※））、
監事（管理担当）1名
- 2 推薦委員 9名（任期1年）
- 3 令和3年度日本看護協会代議員7名、予備代議員7名

■受付の方法

立候補される方は、本会会員5名以上の推薦を受けて、立候補届出書及び立候補推薦届を選挙管理委員長あてに届け出て下さい。

※立候補届出用紙等は、本会ホームページからダウンロードするか、茨城県看護協会事務局に申し出て下さい。TEL 029-221-6900

■宛先

〒310-0034 水戸市緑町 3-5-35

公益社団法人茨城県看護協会 選挙管理委員長 綿引 英雄（親展）あて

■受付期間

令和2年2月5日（水）～2月17日（月）必着 郵送の場合は当日消印有効

令和元年度理事会報告

■第4回書面理事会

【報告事項1】

日本看護協会 広報部「ハヤヨミ」
日本看護協会令和元年度第4回理事会報告
日本看護協会・地区別法人会 検討議題
令和元年度都道府県看護協会政策責任者会議報告
令和元年度都道府県看護協会災害看護担当者会議報告

【報告事項2】

2020年度予算編成に向けた茨城県への要望、提案事項について

【報告事項3】

令和元年度台風19号災害対策本部状況報告について

■第5回 令和元年12月20日(木)

【協議事項】

- 1 令和2年度重点政策・重点事業(案)について 承認
- 2 事業報告(4月～9月) 承認
- 3 上期監査報告 承認
- 4 予算執行状況について 承認
- 5 令和2年度見込み会員数(案)について 承認
- 6 令和2年度日本看護協会長表彰候補者の推薦(案)について 承認
- 7 令和2年度日本看護協会名誉会員候補者の推薦(案)について 承認
- 8 「愛の募金」を活用した災害義援金等の支援について 承認

【報告事項】

- 1 日本看護協会令和元年度第5回理事会報告
- 2 日本看護協会地区別法人会・職能委員長会報告
- 3 令和2年度地区・委員会研修事業実施に係る調整方法について
- 4 地区意見交換会報告
- 5 2020年度茨城県優良看護職員表彰について
- 6 第56回いばらき看護の祭典について
- 7 令和2年新年の集いについて
- 8 台風19号に係る災害対策本部報告
- 9 東京2020オリンピック大会
カシマスタジアム医療スタッフ派遣について

日本盲導犬協会への
送金について

茨城県看護協会に日本盲導犬協会の募金箱が設置してあります。10月17日付けで6,718円を日本盲導犬協会へ送金致しました。

皆様の善意が日本盲導犬協会様に届くと思います。ご協力ありがとうございました。

茨城県看護協会では
NPO法人 フードバンク茨城の
「きずなBOX」を設置しております。

缶詰・のり・麺類・お菓子・あんこ・コーヒーセット・カップ麺・お茶・レトルト食品・餅等合計21.3kgを収めました。ご協力ありがとうございました。

「もったいないをありがとう」を合言葉に、企業や一般の方からご寄付頂いた食品を、必要としている児童養護施設や障がい者施設などに差し上げているそうです。

編集
後記

新年明けましておめでとうございます。今年は子年です。
子は真面目にコツコツと働き、適応能力が高く、コミュニケーションも上手で周囲の人をひきつけます。今年も、周囲の人と良い関係を築いていきましょう。

広報委員一同